

日中友好の空の架け橋

中国線就航20周年

2006年には456万人に上る人々が日中間を往来しました。日中両国の発展に伴い人的移動、物的流動はますます増加していくものと予測されます。ANAは日中友好の空の架け橋として、1972年に日本の航空会社で戦後初めてチャーター便を運航し、1987年には定期便の運航を開始して路線網を拡大してきました。そして2007年4月、中国線就航20周年を迎えました。このようなANAと中国の関係は、ANAの第二代社長岡崎嘉平太に遡ります。岡崎嘉平太の足跡をたどりながら、ANAと中国の関係を振り返ってみます。

岡崎嘉平太が礎を築いたANAと中国の関係

1897年、岡山で生まれた岡崎は、岡山中学校の寄宿舎で中国からの留学生、陳範九氏との交友を通じて中国への関心を深めていきました。1922年、東京大学卒業後に日本銀行に入行した岡崎は、上海に長く滞在して激動する世界情勢を目の当たりにし、諸外国との交流や友好の大切さを身を持って知りました。

岡崎はその後、産業界に身を転じ、1961年にANAの社長に就任しました。航空業界の発展に大きな足跡を残すとともに、1962年以降、日中貿易交流に尽力しました。訪中回数は100回に及び、周恩来総理をはじめ中国の要人と会談を重ね、中国との友好関係の促進に寄与しました。1972年、日中国交正常化の際には周恩来総理自ら岡崎に、「わが国には『水を飲むときには、井戸を掘った人のことを忘れない』という言葉がある」と、その労をねぎらいました。

中国線就航20周年の軌跡

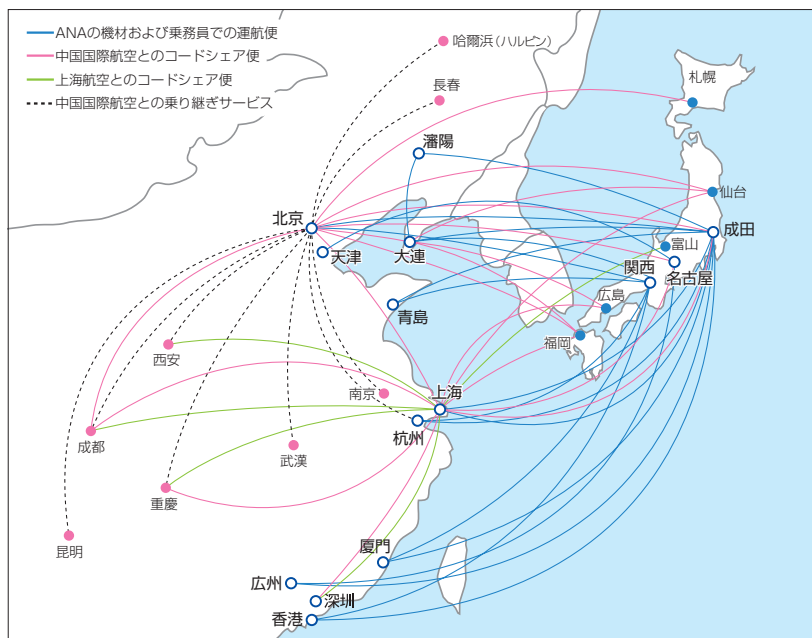
1972年8月、ANAは日本の航空会社として戦後初めて、中国上海舞劇団一行を乗せたチャーター便を羽田から虹橋(上海)に向け運航しました。虹橋空港でANA便は3,000人ともいわれる人々に音楽と歌と踊りで熱烈的な歓迎を受けました。



岡崎嘉平太 第二代社長



周恩来総理と会談する岡崎嘉平太(左)(岡崎嘉平太記念館所蔵)



中国線ネットワーク(2007年8月現在)



1987年4月、中国への初の定期便となる東京-大連-北京線を開設。成田空港出発ゲートでの初便就航セレモニー



就航 20 周年記念パーティーで岡崎嘉平太と周恩来夫人との
会談のパネルを贈られる大橋洋治会長



北京空港を見学する全日空藍天希望小学校の皆さん

その後まもなく同年9月に日本と中国は国交を回復しました。

1987年4月、ANAは定期便として東京―大連―北京線を開設し、岡崎も初便で中国の地を踏みました。そして、北京での就航記念パーティーは、岡崎の日中友好に力を注いだ貢献をたたえて、人民大会堂で開催することが許されるといった破格の待遇を受けました。

その後ANAは、香港、上海、天津、瀋陽、青島、廈門、杭州、広州と就航地点を拡大していきました。現在は旅客便を20路線に週154往復、貨物便を11路線に週34往復運航しています。2006年にはANAの中国線を136万人のお客様にご利用いただきました。

中国への感謝の気持ちを込めて、 希望小学校を寄贈

1997年4月、ANAは河北省深平県に全日空藍天希望小学校を寄贈しました。ANAの中国線就航10周年と日中国交回復に尽力した岡崎の生誕100周年を記念して、中国への感謝の意と中国の文化・教育振興事業プロジェクト「希望工程」に役立つ支援を行いたいとのANAの願いが通じて実現しました。さらに、日中国交正常化30周年を迎えた2002年9月には、河北省興隆県に2校目の希望小学校を寄贈しました。

岡崎嘉平太国際奨学財団を創設

岡崎が標榜した「アジアの国における人づくり」を実現するために岡崎嘉平太国際奨学財団が1990年に創設されました。中国をはじめとした東南アジア各国から留学生を招聘して、日本の大学院に進学する支援を行っています。これまでに70名を超える卒業生を送り出し、彼らは母国で教鞭をとったり、政府機関や企業に就職して

います。そして母国の発展と日本との友好に努力しています。

日中の空の架け橋として中国線を拡充

ANAは2002年4月に上海航空と、2004年2月には中国国際航空と提携して、中国の航空会社との協力関係を構築しています。また、2003年5月から上海ベースの中国人客室乗務員を採用し、中国線の運航基盤拡充を進めています。

2007年9月には羽田―虹橋線が開設され、日中の距離はますます近くなりました。ANAは日中の空の架け橋として日中両国の皆様の期待にお応えできるように、より一層努力してまいります。



全日空藍天希望小学校

日中友好の翼として一層のご活躍を期待しています

2007年は、日中国交正常化35周年という記念すべき年であり、ANAにとっても中国線就航20周年という節目の年であり、心よりお祝い申し上げます。

1987年4月16日にANAは、中国への初の定期便を開設し、その日は岡崎嘉平太先生の90歳の誕生日だったと記憶しています。岡崎先生は中国人民の古い友人で、日中党書貿易を通じて、日本と中国の国交回復に大きな貢献をされました。1972年、日中国交正常化の際には、周恩来総理は「水を飲むときには、井戸を掘った人のことを忘れない」と岡崎先生の長年のご努力を高く評価されました。

ANAは岡崎先生の精神を受け継ぎ、日中の架け橋として両国の友好関係の発展のために、多大な努力と貢献をしてきました。2008年の北京オリンピック、2010年の上海万博の開催により、日中間の人的交流、経済交流もますます盛んになり、物流の高速化も一層促進されるでしょう。ANAの中国線は、一層大きな役割を果たすものと確信しています。

2007年4月、温家宝総理が訪日し、両国の戦略的互恵関係の構築を日中の首脳同士で確認しました。そして羽田―虹橋間のチャトル便も実現しました。ANAは今後、中国の航空会社、関連企業との連携を通じて「平和共存、世代友好、互恵協力、共同发展」の方針を堅持し、両国の民間航空事業の発展と日中友好関係のさらなる発展のために引き続き貢献することを期待しています。日中友好の翼として、ANAのますますのご発展を心から祈念しています。



中華人民共和国駐日本国大使館
孔 鉉 佑 公使